



ぎんが 冬の銀河鉄道

ギャラクシティで行われるジャパンフェスタのイベントの1つとして、まるちたいけんドームでは、「能と朗読による音楽劇『銀河鉄道の夜』」を1月23日(土曜日)午後6時より上演します。コロナ禍の下でのイベントなのでネットでも配信します。ぜひ自宅でお楽しみ下さい。

(会場の80席は予約で満席になりました。)

さて、銀河鉄道の夜は夏の銀河に沿った星座を題材にした宮澤賢治の名作として知られています。それが何故冬に演じられるのか不思議に思う人もいるでしょう。



能と朗読による音楽劇『銀河鉄道の夜』(イメージ)

銀河(天の川)は夏の夜空だけではなく、秋の夜空にも、冬の空にも見られます。春は見えないと言われますが、実は、地平線の下で冬の銀河と夏の銀河はつながっています。そこには、物語にも登場する、ケンタウルス座やサザンクロス(南十字)、黒い穴(コールサック)などがあります。そこから夏の星座の地平線、さそり座、わし座、いるか座、はくちょう座へと天の川はつながっています。

プラネタリウムでの上演なので、日本からは見えない星座も含めて、物語で扱われ方と、星座としての言われや神話についてのお話も予定されています。

2021年1月3日記(解説員: 田部一志)